（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390200246		
法人名	株式会社大渕産業		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	熊本県八代市昭和日進町字会通152－3		
自己評価作成日	平成30年2月12日	評価結果市町村受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成30年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設して5年目に入り、管理者やスタッフの移動などもあり、不安に感じられた利用者様やご家族の方もいらっしゃったと思います。初めての看取りを取り組み、ご家族や訪問看護、Drなどたくさんの協力があり送れた事を感謝し、スタッフの成長にも繋がったと感じています。そのなかで大切にしていることは、利用者様の話を聞き、思いに応えられるよう、日々笑って楽しく過ごせる毎日になるように心掛けています。自分だったらどうか？を常に考え、スタッフと話し合いながらケアに取り組んでいます。 また、利用者様の気分転換になるように外出なども考えてきました。今年度は買い物、花見、ご家族との温泉旅行、回転寿司を食べに行ったり、楽しめる事を計画立てています。 これからも利用者様の希望に添えるよう取り組んで行きたいと思ってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昔ながらの付き合いが色濃く残る地域の中のホームは、夏祭り等を通じ更に近隣住民との関係を深めている。この1年、入居者の入れ替わりとともに職員体制も変動しているが、入居者の思いに寄り添い、101歳でも独歩での生活や家族からの情報を日常生活に活かし、得意分野を発揮させながら楽しく過ごされている。例としてハーモニカを園児や学童の前で披露される方、家族との温泉旅行等、入居者が主役のホームである。今年度はじめて看取りケアを行い、偲びのカンファレンスにより思いを共有するとともに、今後の対応を検討する等に職員のケア姿勢が表れており、101歳を最高齢に高齢化する現状に、今後の取組みに大いに期待したい。企画した外出の多さもこのホームの特徴の一つとして、〝行きたい、したい〟等の声に、偏りのないケアを実践している。入居同士の仲睦まじく過ごされる様子に、職員の持つケア力が表れており、管理者を中心に風通しの良い関係性が企画力やケアに反映させており、更に今後の展開に大いに期待されるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフにアンケートをとり、どんなケアをしたいか？自分だったらどうされたいか？など利用者様の気持ちを考えながら話し合いをしているが、まだ検討中である。	開設時からの理念の4項目を掲げ、地域社会とのつながりを大切にしたケア等職員の入れ替わりもある中で、自分の立場での支援でアンケートが終了したことろであり、次のステップへと反映させる意向である。	職員の総意で検討するという意識の高さも確認された。基本方針の8項目がケア規範としての姿勢が謡われており、振り返りの原として生かされることを大いに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や保育園から交流に来て頂き、毎年恒例の行事になってきている。利用者様やそのご家族も参加され、とても喜ばれている。小学生は清流での体験を劇にされ生活発表会にもご招待して頂いた。	自治会の一員として初寄合い・総会への参加や回覧板の受け渡し等昔からのお付き合いが色濃く残る地域ならでは近隣とのお付き合いが行われている。野菜や花の苗をいただいたり、散歩中の住民との歓談や隣近所との良好な関係性が築かれており、台風時に声掛けしたり、留守中も自宅の見守り確認を行っている。また、保育園児・小学校との相互交流を継続し、体験学習の成果が文化祭で披露されホームも招待されている。また、家族と地域との交流として夏祭りを開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一回の合同研修で行われた、認知症対応サポーター研修でスタッフと一緒にご家族の方にも参加して頂き、「すごく勉強になった。知り合いの方にも教えてあげたい」とおっしゃってもらえた。今後も地域の方にも参加して頂けるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席して頂ける方はほぼ固定されてきている。だが第二圏域の地域密着施設の情報交換で相談をして、他のグループホームの管理者も運営推進会議に参加して頂いたり、参加したりして、どんな事をされているかなど、参考に取り組んでいる。	運営推進会議に中での避難訓練や夏祭りを組み入れる等創意工夫した運営推進会議は、まず議題を提示しながら定期的に開催している。他のグループホームに運営推進会議に参加する等お互いに行き来している。毎回入居者の紹介からスタートし、2ヶ月間の様子は写真で開示している。看取りケアを経験した事例の報告なども取り入れている。	このホームの特徴として参加者が多いことが挙げられ、避難訓練後には活発な意見交換が行われている。更に、出された意見に対して進捗状況も伝えられることで、次のステップに繋げて頂きたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して活動報告などをしている。また、制度改定時など市役所から説明に来てもらえたり、研修会のお知らせをメールで送っていもらったりしている。	運営推進会議への参加時に、ホームの状況を報告し、アドバイスを受けたり、介護保険制度変更等の情報を得ている。地域包括支援センター主催の研修（認知症サポーター研修）等の情報をメールを通して把握する等メールでやり取りしている。また、地域包括支援センターや社協等からの空き情報確認や入居相談が寄せられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会などを通して目に見える拘束などは理解できていると思うが、スピーチロックなどにはまだ意識がないこともあるので、その辺の勉強会などもしていきたいと思っている。	研修会では事例を通じて自分がされてどう思うかや未然に防げることは無いか等グループワークしている。家族と相談し、転落・転倒防止に人感センサーを設置している。また、今は外出傾向もなく、玄関は開錠し自由な環境での生活であり、自由に出入りしながら日向ぼっこを楽しまれる様子も確認できた。意識せずつい出てしまう職員の言葉に、管理者は先ず入居者の意向を聞きケアに努めるよう指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会には積極的に参加してもらい知識を深めている。カンファレンスなどで、振り返りをして、自分だったらどうか？を常に考えてもらいながら対応するようにしている。やむおえない場合、ご家族への相談、説明し納得してもらえるように気づけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回は研修会を行い制度について学ぶ機会をもっているが、理解するまでに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族に分からない事や不安な事がないか一つ一つ確認しながら行っている。入居後も面会時にこまめに声掛けし不安や疑問点などないか尋ねるように気がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事で来られた時には、ご家族や利用者様のご意見を聞くように心掛けている。スタッフの入れ替わりなどもあり、ご家族様が話しやすいようにするため、こちらからのお声かけ挨拶を大切にとスタッフにも伝えている。	家族の面会時にホーム側から声を掛け、要望等を聞き取りしている。家族が入居者の声を代弁されるケースもあり、職員の成長につながるケースをして捉え、苦情として挙げ検討している。運営推進会議も問題提起の場としている他、行事等に参加されている。また、看取りケアの中で、職員のかかわり方も家族も学び、このホームに入れたことに感謝されている。	夏まつりは多くの家族が参加されており、家族や地域との交流の場としての役目を果たしている。行事等の参加時に家族同士の話し合いの場も作られるよう検討いただきたい。家族の悩みの発信場所にもつながると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様も半数変わったり、状態の変化やスタッフの入れ替わりもあったので、提案や意見を聞くようにしている。カンファレンスなどで、普段意見が挙がらない方にも発言してもらえるようにグループワーク式で行っている。必要に応じて出た意見を代表者にも伝えている。	管理者は職員とのコミュニケーションを図ることで方向性を統一している。入居者のいつもの違いを常に把握し、グループワークにより様々事案を検討している。職員からの意見は管理者が代表に上申する体制としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てるよう勉強会や研修会への参加ができている。勤務内での休憩もしっかりとれるようになった。休み希望や有休、残業なども反映して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキルアップのため、研修会などの参加をさせてもらっている。今年からは、訪問看護さんのご協力もあり、ケアなどの考え方、対応などのご指導もして頂けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一回同じグループホームさんと一緒研修会に参加し交流させて頂いている。今年は認知症を知ってもらうRUN伴にも参加し、色々方とのつながりをもてる活動ができた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族から話を聞き得た情報はスタッフみんなに共有し話し合いをしている。ご本人やご家族に確認するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり話を聞いて、何が困っているのか？どうしたいのかを聞きだせるようにしている。スタッフや上司にも相談して、何ができるのかなど話合い安心して頂けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	7月から半数の利用者様がこちらへ入居された。ご家族やご本人様の思いを大事にして、何がこの方には大事なのかを考え話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の今までの経験を生かして裁縫や畑、家事や歌など教えてもらう事がたくさんある。体調や表情を伺いながらお願いしている。今では利用者様から率先してスタッフへ声かけてくださり、とても助かっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時にご利用者様の心境をお伝えしたり、要望など言われていた時には代弁してお伝えたりすると、後日面会に来て頂けたりしている。もっとご家族もスタッフに話しやすい雰囲気作りをしていけたらいいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に了解を得て、馴染みの所へドライブへ行ったり、家の周辺まで見に行ったりしている。馴染みの方の面会もあっている。	家族・近所の方の訪問、祭りのがメも訪問し、かかりつけ医の継続や、101歳という中でも家族が温泉に連れ出したり、ホームでの温泉旅行に家族とともに参加されるなど家族の協力により支援している。また、八代という立地からもトマトやメロン等の果物や元の住い周辺へのドライブ、ハーモニカが得意との家族の情報から児童や保育園児の前で披露される等このホームならではの馴染みの関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係はあり、たまに揉めたりすることもある。表情を伺いながら対応するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から話しを聞いたり、お手紙を書いたり、その後もスタッフが会いに行ったりと、関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様に話を聞いたり、希望を聞くように心掛けている。まだ全員の十分な把握までには至っていない。	職員は行きたいところ等要望を聞き取りし、目が不自由であっても「外に出てみましょう」と声を掛ける等偏らないケアに努めている。特に男性入居者の言いだされない気持ちに寄り添い、どういうことをしたいのかをくみ取りながら、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族、友人の方にも生活暦を尋ねたりしている。買い物やドライブで近所を通ったりすることで、利用者様の昔の話を引き出せたり、馴染みの方からの情報を頂いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の思いやいつもと違うことなど記録に残すようにしている。スタッフそれぞれ気付きあるがそれを記録に残せておらず共有まで至っていない為今後の課題である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付きが十分に上がらず現状に即したプラン立案までには至っていない。モニタリングについては各担当のスタッフが行っている。	本人や家族の希望をもとに、入居という新しい環境のなかで能力の発揮や張り合いのある生活に向けた方針のもと、心身両面からのフォローにより現状よりできる事を増やし、苦慮ない暮らしを支援するプラン等が作成されている。家族の訪問時を捉え、プランの説明や変更する事項などを聞き取りし、同意を得ている。担当職員によるモニタリングにより方向性等を追記し、介護認定更新時に合わせ見直している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が上手に書けていないスタックが多いため、カンファレンスで話し合ったりしている。気づきなどプランにそって書けるようになって欲しい。これから研修会に入れ込んで行こうと考えてる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診などご家族が行けないときはスタッフが代行したりできる限りはするようにしている。今年から往診や訪問看護さんにはいって頂いており、薬剤師さんなどにも相談しやすく沢山のご協力を頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生や保育園生との交流や認知症カフェに参加したり、婦人会の方との交流など地域資源を活用して楽しみをもって頂けるよう努めている。消防訓練では、近所の消防団の方々のご協力もあり、これからもつながりを大切にしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	こちらからの病院受診が変更になったので、今年からご家族より病院受診が困難な利用者様は往診して頂けるようになった。往診してもらえることで、待ち時間もなく、ゆっくりした時間で利用者様の生活を見て頂くことで、より相談しやすくなった。	昨年4月よりホーム車両による送迎受診が行政の指導により変更、家族や介護タクシーなどを利用した受診となっている。現在は希望する医療機関による往診や家族による受診体制として、日々の健康管理とともに訪問看護師と連携し、専門医の受診など適切な医療を支援している。また、歯科については協力医より必要に応じた診療が行われ、口腔ケア全般の相談に応じてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年から訪問看護さん協力して毎週金曜日には健康チェックにきて利用者様の状況、スタッフの相談や指示などを行ってもらっている。初めての看取りを行った時には、不安ばかりだったが、訪問看護さんの指導のおかげで看取りをすることができた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院で急に環境が変わると利用者様がいちばん不安になってしまうので、出来るだけ面会に行き入院先の看護師さんとも情報交換出来るように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初めて看取りに取り組み、分からない事も多く、スタッフの不安もあり、始めに看取りの研修会を開いてもらった。ご家族や訪問看護、ドクターと含めて話し合い協力をして頂き看取りをすることができた。ご家族又はご本人様の意見は大事にしたいと思っていたが、もう少しご家族とご本人様の寄り添える空間や時間を作ってあげられたのではないか？次回に生かしたい。	入居時に医療連携に係る指針をもとに、重度化した場合の対応について説明を行っている。看取り支援については、研修会により意識を共有し、今年度、主治医や訪問看護との連携によりホームでの看取りを支援している。看取り介護中も訪問理容により、整髪を支援し、偲びのカンファレンスを開催し、不十分であった点などを、今後のホームの取り組みに繋げるとしている。	看取り支援後にその方を偲びながら、支援中の取り組み（食事や清潔保持・口腔ケアなど）や今後の看取りケアについて、良かった点や気づき・反省する点などを話し合われている。また、本人様から教えてもらったことなども記録に残されており、ホームの日頃の関わりや真摯な思いが表れている。今後もホームにできる最良の支援で入居者・家族の思いに応えていかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の研修会でも訓練をしているのもあり、急変時の時でも少しは落ち着いて対応できたと思う。応急手当や判断など知識をもっと身につけていけたらと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の時に消防団長を含め近所の団員の方々にも参加して頂き、利用者様の状態や室内の構図なども見学してもらい、コミュニケーションも取れ話し合いもでき、とても心強く感じた。これからもいろんな相談や活動をしきたい。	今年度2回（6・1月）の避難訓練が行われており、1月の訓練では家族を含む運営推進会議のメンバーや地域消防団員、交流のあるグループホーム職員などの参加協力を得、実施されている。また、1月の訓練は寒さもあり、入居者の代役を家族などに行ってもらっている。訓練後は消防団長や家族、職員から反省点（マニュアルの見直し・消火器の設置場所の把握不足など）か挙がっており、次回に活かすこととしている。	訓練の際は近隣者へ周知は行っているが、参加には至っておらず、引き続き参加協力への働きかけが期待される。また、自然災害についても、風化させることなく会議などで話し合う機会を持っていただきたい。安全チェックの徹底や、備蓄についても進めていかれることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男性スタッフも増えたので、申し送りなどで情報の共有を行い、プライバシーを傷つけないようにきをつけている。だんだん馴れ合いの関係になってしまうため、言葉遣いに気をつけなければならない。	家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの尊厳を大切にした暮らしの提供を方針に掲げ、偏らないケアも尊厳の一つしている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、言葉使いは方言を交えながらも失礼のないよう注意している。入居時に同性介助への対応や希望を確認しているが、夜間オムツ交換は人員配置の面から男性職員も行っており、不安の無いよう十分に配慮している。	玄関の面会日については、個別記入など検討されることを期待したい。また、職員の守秘義務の徹底に関しては、あらためて周知を図る機会や、居室へ入る際は在室の有無に関わらずその方の部屋として、ノックの徹底が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や意思を尋ねるようにしている。自己決定に近づけるように色んなパターンから選んでもらったりの工夫がもう少し出来たらいいのかと感じる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はゆっくり休みたい・・ごはんが進まない方はご家族に相談して10時頃起床され軽食を摂って頂いたり、お昼を抜かれる方もいらっしゃる。出来るだけ本人様に尋ねるようにして、困難な方は、表情などを伺い対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カラーやカットなど希望があったり、利用者様にお尋ねして出かけたり対応している。マニキュアなど好まれる方もいらっしゃい、利用者様同士で塗ったりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食事やお誕生日会のときはご本人様の好きな物（食べたいもの）を尋ねて作り、皆さんでノンアルビールやカクテルを片手にお祝いしている。家事、食事も利用者様が率先してお手伝いしてくださるので、こちらも助かっている。	ホームの食事は入居者の好みや季節感のある献立のもと、精肉・鮮魚店からの配達や、主食となる米にもこだわり、美味しく楽しい雰囲気を心掛けている。希望を取り入れた誕生会食や行事食、一緒に行うおやつ作りなども好評である。嚥下状態に応じてミキサーやソフト食を準備し、食欲が低下された方には、少量を小鉢に入れ品数を増やし選択してもらうなど工夫している。また、栄養改善への取り組みについてもホーム外研修で学んでいる。	職員も同じものを一緒に摂りながら、楽しい食事の時間であった。入居者は「手伝いさせんば、そんばい！」と言いながら、茶わん洗いやお盆拭きなど、自発的に手伝ってくださる方もおられるようである。今後も味見や盛り付け、食材購入など個々に応じた食への関わりを継続いただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が難しい方にソフト食を取り入れてみた。ご本人様のペースに合わせて好まれる物を提供していたら、だんだんと食欲も出てこられた。栄養も大事だが、利用者様に喜んで食べて頂けるよう考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士さんによる口腔ケアや体操など入ってもらい、困った時なども早い対応をして頂いている。スタッフの指導やアドバイスをもらい、誤嚥性肺炎の予防で食前にアイスマッサージを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様のペースに合わせて、できるだけ、トイレで排泄できるように誘導し、布パンツ又はリハビリパンツで対応している。そして感染症などを防ぐように就寝時と起床時には洗浄するようにしている。	一人ひとりの排泄の間隔や状態に応じて見守りや声掛け・誘導が行われている。職員も入居者と同じトイレも使用しながら、臭気や使いやすさなど同じ目線で確認している。トイレは4か所設けてあり、使い慣れた居室近くを使用されているが、混雑する場合は速やかに空きの場所へ誘導し、失敗の無いように努めている。感染症を防ぐために起床・就寝時には洗浄支援を行っており、気持ちよい安眠にも繋がっている。残存機能を活かした支援により、オムツから布パンツになった方もおられる等自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お通じの事や風邪予防も考えR-1ヨーグルトを作り毎日朝食時に提供するようにしている。利用者様にも好評。そして排便のタイミングを逃さないように注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか本人の希望通りにいっていない。ご家族様が月に1・2回温泉に連れていかれるところもあり、リフレッシュされている。秋にはご家族との温泉旅行に出かけたり楽しんで頂けた。	入浴は週２～３回の支援としているが、毎日入浴したいとの希望に家族と相談し、足浴などを取り入れながら対応していくことを検討している。浴槽へのまたぎが困難な方には、リフト浴を使って湯船に浸かってもらっている。高齢化した中でも家族との温泉旅行等も楽しまれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足の浮腫がある方は昼寝時に下肢のマッサージを軽くしてから休んでいただいている。空調、湿度には注意し、音楽をかけてみたり、不眠の方には足浴をしてみたりと安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服ファイルを作り、理解するよう努めている。変更や臨時のお薬が処方された時は申し送りやノートに書き周知している。また、誤薬がないように、必ず名前と日付を声に出してスタッフ2人で確認し与薬するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や洗濯物たたみや調理のお手伝いと役割が出来てきている。無理のないように声を掛け自分で出来ることは自分でして頂いている。趣味や外出など個々にそった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の気晴らしも考え、日常の買い物やドライブなど定期的に外出するようにしている。ご家族と話し合いご主人様のお見舞いへ行ったり自宅付近をドライブしたり、利用者様の希望が多かった回転寿司にみんなで食べに行ったりと利用者様の希望に添えるように心がけている。	買い物をはじめ気候や天候の良い時は、誘いの声掛けを行い、入居者が戸外に出る機会を持っている。庭先での日向ぼっこ、ホーム周辺の散歩や外食なども希望の店や料理名を聞きながら出かけている。直近では、地域の商店街アーケードで開催されているひな祭り展にも1～2名の少人数で出かけている。	ホーム目の前は小型の路線バスも走っており、今後は近距離の系列のグループホームやスーパーマーケットまでバスを使っての外出を楽しまれることも一案と思われる。引き続き職員の工夫や地域、家族の協力を得ながら入居者の外出の機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の安心も考えご家族より金額は少ないがお財布を持たせておられる。買い物へ行くときは本人様にお金を預けて払ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望がある時は家族や友人など連絡をとれるようにしている。又、心配ごとなどご家族との会話がよいと判断した時はこちらから声をかけたりもしている。手紙のやり取りはないが、年賀状を書いて頂いた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、ポツンと一人にならないよう、誰でも皆さんとお話し出来るようにテーブルを近寄らせている。食事中はテレビを消して音楽やラジオなどを鳴らし、会話を楽しんでいる。利用者様のハンドメイドの小物も飾らせてもらっている。	入居者が食事やテレビ視聴、談笑など日中の殆どを過ごすリビングホールは、それぞれが居心地よく過ごせるようソファやテーブルの配置も状況に応じて検討されている。庭先の樹木を見たり、部屋の雰囲気も明るくなるよう、遮光に配慮しながらレースカーテンも開けるようにしている。入居者の作品、外出時や活動写真の掲示、飾り物（訪問当日は雛飾り）、庭先で摘んだり、職員が持ち寄った草花も随所に飾られ、季節を感じることができる。また、入居者がミシン掛けをされた暖簾なども、ホーム内の雰囲気を柔らかにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビは見らず歌が好きな方は居室へソファーを持っていきゆっくりして聞いて頂いたり、一人がよい方は、仕切ってある和室で過ごしてもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の希望やご家族との話を聞きながら、馴染みのある家具や写真など持ってきて頂き居心地の良い空間を作れるように心がけている。	入居時に本人の意見を聞きながら、馴染みや使い慣れた品の持ち込みを家族へ伝えている。近隣の風景が眺められる部屋は広さや採光も良く家族の写真や着慣れた衣類・帽子などがスッキリ配置されている。衣替えは家族にも協力を依頼しているが、ホームが中心に行っている。入居者は自分の部屋として使われており、起床時間も体調や習慣などからバラバラであり、掃除や換気は午前に限らず、午後からも行われている。	広めの居室で押入れも備わっており、ゆとりの空間である。衣替えをはじめ、今後も家族と一緒に居心地の良い居室環境に努めていかれることを期待したい。
55		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、自分で出来るように声かけ見守りをしている。利用者様にも率先してやって頂けており、ごはんの仕込みも行ってもらっている。		